

経営比較分析表（平成29年度決算）

岡山県 備前市

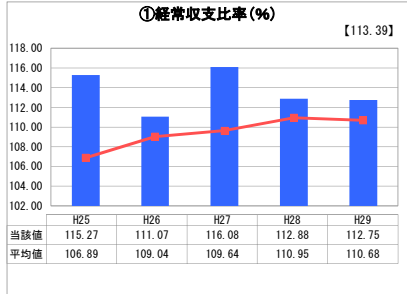
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	86.20	98.85	2,721	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,293	258.14	136.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
34,596	83.30	415.32

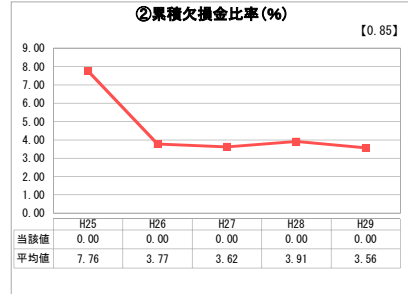
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

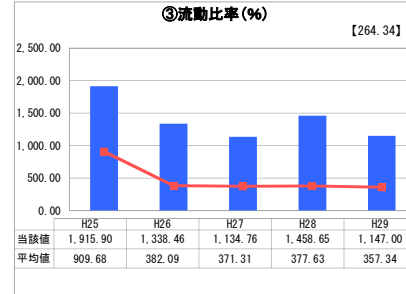
1. 経営の健全性・効率性



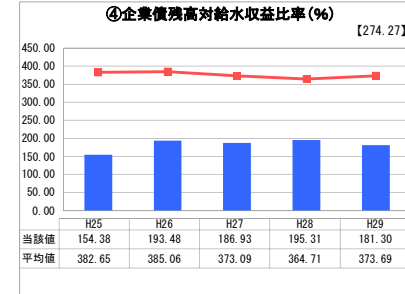
「経常損益」



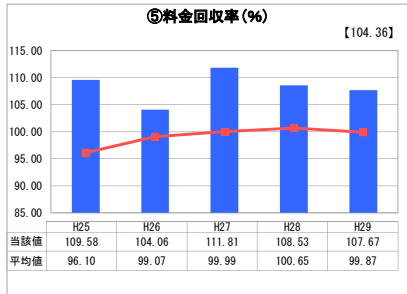
「累積欠損」



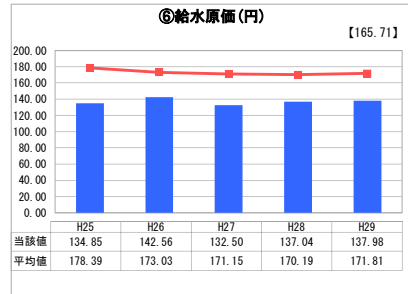
「支払能力」



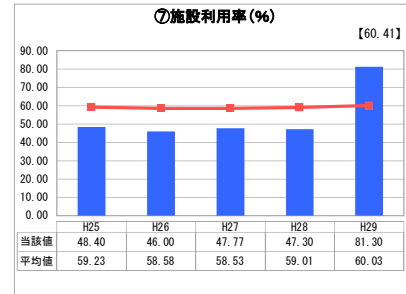
「債務残高」



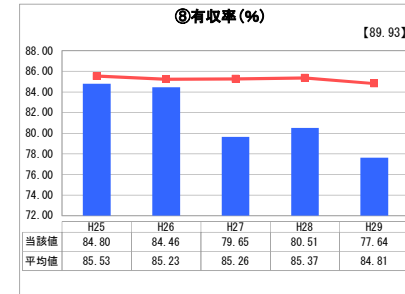
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

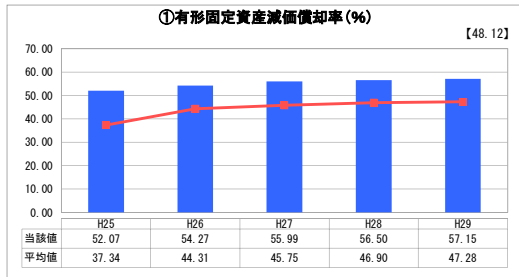


「施設の効率性」

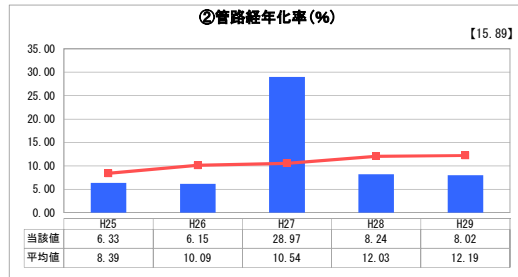


「供給した配水量の効率性」

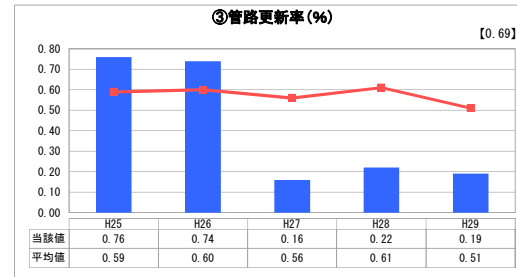
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性・効率性は、①～⑦の各指標とも水準以上を保っており問題ない。給水に係る費用は料金収入で十分に賄っており、欠損金もなく、十分耐え得るだけの現金等もある。また、今後の人口減少の見込みから施設規模の縮小化を図り、1日最大給水量を35,100m³から21,400m³に変更したことにより、施設利用率は大幅に向上した。

⑧有収率は、漏水件数の増加等に伴い、低下傾向が続いているため、漏水調査や管路老朽化診断を実施し改善に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、50%を超えており、計画的に施設を更新していく必要がある。

②③管路については、経年化が進んでおり、早急に更新する必要があるが、ここ数年は修繕対応が続いており、更新工事は低水準にとどまっている。

また、有収率が年々低下傾向にあることから、漏水調査や管路の老朽化診断を実施し優先順位をつけながら、効率的に更新を進めていく必要がある。

全体総括

水道事業の経営は、現在は比較的安定しているが、給水収益が年々減少し、今後は施設の維持管理費用の増加が見込まれるなど、経営状況の見通しは非常に厳しい。

また、漏水等による有収率の低下から、施設・設備の老朽化が顕著であり、今後は施設の更新も大きな課題となると予想されるため、更新においては、収支のバランスと効率性の観点から更新箇所を選定を行うなど、より健全で効率的な経営に努める。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。